

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業 ていだのふぁ		
○保護者評価実施期間	令和6年 10月 15日		～ 令和6年 11月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16人	(回答者数) 15人
○従業者評価実施期間	令和6年 11月 14日		～ 令和6年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心感を持って、楽しく通所できるような環境づくりが行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 毎日異なる活動内容を実施している 子どもの興味を引くような職員の声掛けや支援が行われている 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味や発達に合わせた活動内容を検討する 子どもに対してあたたかな声掛けをして、安心して活動できる雰囲気職員全体で作る
2	日頃から子どもの様子や発達の状況などを保護者と伝え合い、共感的な支援が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 朝や帰りの送迎時に保護者と子どもの様子を伝え合っている 子どもの様子や良かったところをノートを通して伝えている 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間でコミュニケーションを取り、様々な職員から見た子どもの様子を保護者に伝える 保護者からも話を聞き、悩みや困り感を解消するよう働きかける
3	子どもの様子を十分に理解して、個別支援計画が作成されており、その支援内容を保護者へ適切に説明していること	<ul style="list-style-type: none"> 日々の子どもの様子を個別支援計画に反映している 面談を通して、保護者から自宅での子どもの様子を聞いている 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者から自宅での子どもの様子を積極的に聞き、個別支援計画に反映させていく 個別支援計画の内容を保護者に説明し、支援内容について意見をもらう

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもが過ごす空間が、手狭であったり危ないと思われる箇所があったりする	<ul style="list-style-type: none"> 施設の中で老朽化している箇所がある 子どもが密集してしまう時間がある 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の様子を日々点検し、危険な箇所があれば修理する 子どもが密集しすぎないように、活動の内容を工夫する
2	ペアレントトレーニングや家族等も参加できる研修会や情報提供の機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> 家族等も参加できる研修会の機会が準備されていない ペアレントトレーニングについて、職員が十分に理解できていない 	<ul style="list-style-type: none"> 法人全体で職員や利用者家族等も参加できる研修を企画する ペアレントトレーニングを実施できるように、職員が理解を深める
3	地域に開かれた事業運営が図られていない	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々も参加できるようなイベントを企画していない 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々が参加できるようなイベントを、法人全体で企画・運営する 地域で行われている活動に利用している子どもと一緒に参加する